

令和2年度第4回区有地等活用検討会 議事概要

開催日	令和2年9月11日（金）
	書面開催
出席者	副区長（委員長）、財産管理担当部長（施設経営課長兼務）、教育長、子ども部長、教育担当部長、保健福祉部長、地域保健担当部長、地域振興部長、戸籍住民サービス担当部長、文化スポーツ担当部長、オリンピック・パラリンピック担当部長、環境まちづくり部長、計画担当部長、まちづくり担当部長、政策経営部長、行政管理担当部長、総務課長、企画課長、財政課長、区有施設担当課長 【事務局】財産管理担当課長、施設経営課
議題	○旧九段坂病院跡地の取得について〔各委員からの意見聴取〕 （財産管理担当部長）
確認された事項等	・2月の区有地等活用検討会や首脳会議で取得する方向性を確認しているが、その後、コロナ禍で社会経済状況が変化している。このような状況下で、区が取得の最終的な判断をするにあたり、改めて検討会メンバーの意見を聴取する。
<p>参考：主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○希少な土地で二度と出ないので買うべき。立地や広さ等もいいので買えるなら買ったほうがいい。 ○同じ資産である基金を土地という形に変えるだけで費用ではない。基金から土地に変えることで、長期的には有効かつリスクは少ない。今後の施設需要の総量を考え、一方で低未利用地の状況を考えて場合に、不足するというのであれば買う。整理できないのであれば先送りするという判断もある。 ○まとまった土地で希少であり、区の中心に位置し、二度と出てこない土地である。コロナ禍の厳しい状況ではあるが、長期的スパンで土地購入は考えるべき。使用目的が定まっていない点は弱いですが、行政需要が多すぎて絞れないという面もある。 ○土地購入は基金が財産に変わるだけ。何かあれば売却することも可能。しかし、現時点の社会状況をみると、活用の目的も明確に定まっていない中で、区民の理解を得ることは難しい。 ○今後のコロナ禍の見通しも立っていない状況で、不測の事態に備えて蓄えてきた基金を、あえてこの使用目的が定まっていない土地に使うことは、区民の理解が得られにくいと思う。 ○昨年度と今は、社会、経済、人々の生活の状況、全てが大きく変わった。今後はコロナを前提とした生活のあり様を見据えていく必要がある。自分たちが置かれた状況を踏まえて一つひとつ施策の妥当性を検討する必要がある。今後の行政需要からすると魅力的な土地だが、一方で状況が変わったことを踏まえれば、区民の生命を守り、生活を支えることがプライオリティの第一位となっている。終息が見通せない中、コロナ対策、将来への備え、財政支出の状況を踏まえると土地購入は断念することも妥当。 ○土地購入は見送るべき。先行きの見通せないコロナ禍の状況を踏まえると、いま基礎的自治体がすべきことはコロナ対策に他ならない。このタイミングでの提案は区民に誤ったメッセージとして受け取られる恐れがある。区民の生命を守るという区の基本スタンスを貫くことが大切である。 	